

幸手市文化遺産だより



幸手市郷土資料館

VOL.18

● 幸手出身の実業家が遺した絢爛豪華な雛飾り



雛
ひな

まつり

この豪華な雛飾りは「御殿飾り雛」と呼ばれるものです。幸手出身の実業家、熊倉良助が愛娘のためにあつらえたと伝えられています。

最上段の御殿の中には男雛と女雛をはじめ、三人官女、五人囃子が並び、御殿の下には隨身と仕丁が控えています。二段目以降には、「嫁入り道具」などが飾られます。現在馴染みの深い「段飾り」と、かつて上方で普及した「御殿飾り」が融合され絢爛豪華な雛飾りで見入る人を魅了します。

今号では、この雛道具の数々をご紹介します。

新指定文化財紹介 『上戸の蛇打ち・蛇引き』

上戸地区では、例年8月の第1日曜日に「蛇打ち」と称して香取神社の境内で大蛇作りを行っています。大蛇は鳥居を使いながら一体作りませんが、全長は30メートルにも及びます。作り終わった大蛇は香取神社の社殿にぐるりとひと巻きし、お神酒を飲ませたら「蛇引き」の日まで飾られます。

「蛇引き」は、お盆の入りの8月13日に行います。朝7時、社殿から外した大蛇を、子どもも加わって地区の西側にある正明院まで運びます。到着後、本堂の周囲をぐるりとひと回りした後、現在では倉松川まで運び行事は終わります。こうした一連の行事は、むかし悪い病が流行したときに、地区に入ってくることを防ぐために行われたものといわれています。

市内の南部や東部では、春先に辻縄などと呼び、藁で蛇を模した縄や人形など藁の作り物を大字や小字の境目に設置する行事が行われています。「上戸の蛇打ち・蛇引き」は、夏期に行なうことや大蛇の設置方法、さらに大蛇の長さなど相違点が多いことが特徴で、令和3年2月1日に市の指定文化財となりました。



全長30メートルにもなる胴体部分



香取神社から、地区の西側にある正明院へ運びます

幸手市郷土資料館 利用案内

開館時間 午前9時から午後5時まで
入館料 無料
休館日 月曜日（祝日の場合はその翌日）、
年末年始
※3月8日（月）まで臨時休館しています

令和2年度企画展

「御殿飾りと雛道具
—熊倉良助ゆかりのお雛様—

期間 令和3年3月9日（火）
～4月25日（日）



アクセスマップ



！ 新型コロナウイルスの感染状況により、郷土資料館の利用内容を変更する場合があります。
ご来館の前には、開館状況などをご確認ください。



幸手市文化遺産だより 第18号 令和3年3月1日発行

編集：幸手市郷土資料館

〒340-0125 幸手市下字和田58-4 TEL 0480-47-2521

発行：幸手市教育委員会



幸手市郷土資料館
ホームページQRコード

お茶道具



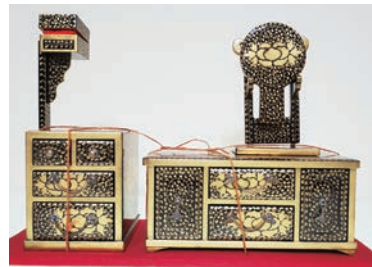
茶せんの長さは2.5cm。茶釜はどっしりとした重みがあります。

蓑盆（たばこぼん）



幅10cm。羅^ら宇^おという細長い管も中空になっています。

鏡台・針箱



鏡箱の中に直径3.7cmの銅鏡が入っています。

筆筒（たんす）



高さ18.5cm、幅17.5cm。錠前の部分には彫刻が施されています。

長持・挟箱（ながもち・はさみばこ）



長持の中には、さらに小さい重箱や鏡台、櫛台などが入っています。

碁盤・碁石



碁^け笥^この直径は1.7cm。この中には直径6mmの碁石が入っています。

お化粧道具



衣^い桁^{こう}・手拭掛・鏡立・鏡箱・盥^{たらい}・火鉢・お歯黒などの道具です。

行器（ほかい）



食料の保存用や贈答用の調度品です。

貝揃（かいそろえ）



八角型、印籠蓋。貝合わせ遊びの貝を入れます。2個で一組。

五曲揃（ごきょくそろえ）



三味線（バチ長3.2cm）、笛（8.5cm）、大小の鼓と太鼓の揃え。

火鉢



火箸の長さは7.5cm。

厨子棚（ずしだな）



巻物には各々松竹梅が描かれています。豆本のような画帖も精巧です。



黒棚（くろだな）



高さ15.5cm。幅18cm。開き戸の内側に布袋と唐子が金蒔絵で描かれています。



書物棚（しょもつだな）



高さ14.5cm。幅17.5cm。下段は引き戸になっています。



御所車（ごしょぐるま）



牛車ともいいます。牛がともリアルです。

御乗物



金蒔絵装飾の乗り物と薙刀・長柄傘のセット。

懸盤膳（かけばんぜん）



饗応の据膳の一種。折敷形の盤を載せ懸けた構造から懸盤といえます。

ここで紹介する雑道具は、黒漆地に金蒔絵で牡丹唐草文様が施された豪華なもので、上流階級の嫁入り道具といわれるものです。

ミニチュアながら細部まで、本物そっくりに精巧に作られた道具は、見ているだけで楽しくなり、子どもの頃に遊んだ「おままごと」を思い出させてくれます。

熊倉良助

熊倉良助は幸手ゆかりの実業家です。明治8年（1875）4月、上高野村で生まれました。15歳のとき、東京に移り、22歳で深川区佐賀町（現：江東区）に米穀店を開業しました。以降、持ち前の行動力によって、全国に事業を展開し、39歳のときには、実業界にその名を響かせるようになります。一方、災害や凶作などには、自ら私財を投じて社会的な公益事業や慈善事業に積極的に取り組むという一面もありました。

